

令和8年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(共通)

別添	なし
----	----

応募概要	分野	演劇	種目	人形劇
	応募区分	一般区分		
	複数応募の有無	無	応募総企画数	
	複数の企画が採択された場合の実施体制 ※			

※ 複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません(グレーアウトされます)。

文化芸術団体の概要	ふりがな	ゆうげんがいしゃ にんぎょうげきだんくらて		
	制作団体名	有限会社人形劇団クラルテ		
	代表者職・氏名	取締役 奥洞 昇		団体ウェブサイトURL
				https://www.clarte-net.co.jp
	制作団体所在地	〒 559-0015	最寄駅(バス停)	住之江公園駅
		大阪府大阪市住之江区南加賀屋3-1-7		
	制作団体と公演団体が同一である場合はこちらにチェック	<input type="checkbox"/> ※チェックをつけた場合、下記公演団体の情報は記載不要です		
	ふりがな	にんぎょうげきだんくらて		
	公演団体名	人形劇団クラルテ		
	代表者職・氏名	代表 鶴巻 靖子		団体ウェブサイトURL
				https://www.clarte-net.co.jp
	公演団体所在地	〒 559-0015	最寄駅(バス停)	住之江公園駅
		大阪府大阪市住之江区南加賀屋3-1-7		
	制作団体 設立年月	1964年7月		

制作団体組織	役職員		団体構成員及び加入条件等	
	取締役 奥洞昇		団体構成員:27名(制作班7名、事務班4名、公演班16名) 加入条件:劇団役員が面接で決める。	
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	他の業務と兼任の担当者を置く		本事業担当者名	松澤 美保
経理処理等の 監査担当の有無	有		経理担当者	室田 美幸
本応募にかかる連絡先	メールアドレス			電話番号
	office@clarte-net.co.jp			0666855601

制作団体の実績	制作団体沿革・主な受賞歴	<ul style="list-style-type: none"> ・1948年人形劇団クラルテ創立 以降、全国で人形劇の上演・普及活動を行う ・1964年に法人格取得 ・1982年大阪市住之江区(現住所)にアトリエ竣工 ・2010年神戸事務所(兵庫県神戸市)設置 ・2016年一般社団法人人形劇団クラルテ設立 <p>主な受賞歴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1958年『黄色いこうの鳥』大阪府・市芸術祭奨励賞受賞 ・1979年『だぶだぶ仲間森へ行く』東京都児童演劇優秀賞受賞 ・1986年『瓜子姫とあまんじゃく』国際エスぺラント人形劇フェスティバル特別審査員賞受賞 ・1990年『散るは櫻の花のみか』大阪文化祭賞受賞 ・2018年 劇団創立70周年記念公演『はてしない物語』平成30年度大阪文化祭奨励賞及び大阪劇フェス2018作品賞・スタッフ賞(人形美術・舞台美術)受賞 ・2019年『女殺油地獄』令和元年度文化庁芸術祭賞演劇部門大賞受賞 ・2023年『11びきのねこ』令和5年度こども家庭庁こども家庭審議会推薦児童福祉文化財『女殺油地獄』大阪劇フェス2023作品賞受賞 ・2024年『銀河鉄道の夜』大阪劇フェス2024主演女優賞・スタッフ賞受賞 	
	学校等における公演実績	<p>1956年『三匹の子豚』公演以来、毎年小学校公演実績あり</p> <p>(直近)</p> <p>2017年度『あらしのよるに』9公演、『いえでででんしゃ』17公演、他1公演</p> <p>2018年度『あらしのよるに』15公演、『いえでででんしゃ』12公演、 中高一貫校『ハムレット』1公演、他2公演</p> <p>2019年度『あらしのよるに』14公演、『いえでででんしゃ』4公演、 『トクントクンーいのちの旅ー』2公演、他1公演</p> <p>2020年度『あらしのよるに』3公演、『いえでででんしゃ』2公演、 『トクントクンーいのちの旅ー』16公演</p> <p>2021年度『あらしのよるに』3公演、『トクントクンーいのちの旅ー』4公演、他2公演</p> <p>2022年度『あらしのよるに』18公演、『トクントクンーいのちの旅ー』2公演、他1公演</p> <p>2023年度『あらしのよるに』10公演、『トクントクンーいのちの旅ー』2公演、 『銀河鉄道の夜』1公演、他1公演</p> <p>2024年度『いえでででんしゃ』16公演、『おーいペンギンさん』1公演、</p>	
	特別支援学校等における公演実績	<p>2014年度5校(うち3校は本事業にて『あらしのよるに』山口県立山口総合支援学校、 広島県立庄原特別支援学校、鳥取県立米子養護学校)</p> <p>『サーカスのライオン』大阪府立西淀川特別支援学校、奈良県立大淀町養護学校</p> <p>2015年度1校(本事業にて『あらしのよるに』宮崎県立児湯るびなす支援学校)</p> <p>2016年度1校 京都府立丹波支援学校亀岡分校『三びきのこぶた』他</p> <p>2017年度3校(うち1校は本事業にて『あらしのよるに』兵庫県立赤穂特別支援学校)</p> <p>吹田市特別支援学校『あらしのよるに』、丹波篠山市立篠山養護学校『三びきのこぶた』他</p> <p>2018年度3校(うち1校は本事業にて『あらしのよるに』福岡県立太宰府特別支援学校)</p> <p>篠山養護学校『ゆらゆらばしのうで』他、大阪府立中津支援学校『うさぎのおうち』他</p> <p>2019年度1校 篠山養護学校『赤いめんどり』他</p> <p>2020年度なし</p> <p>2021年度1校(本事業にて『あらしのよるに』佐賀県立中原支援学校)</p> <p>2022年度1校 大阪府立堺支援学校大手前分校『さるとんかどん』</p> <p>2023年度1校 大阪府立堺支援学校大手前分校『おつきさまおやすみ』</p>	

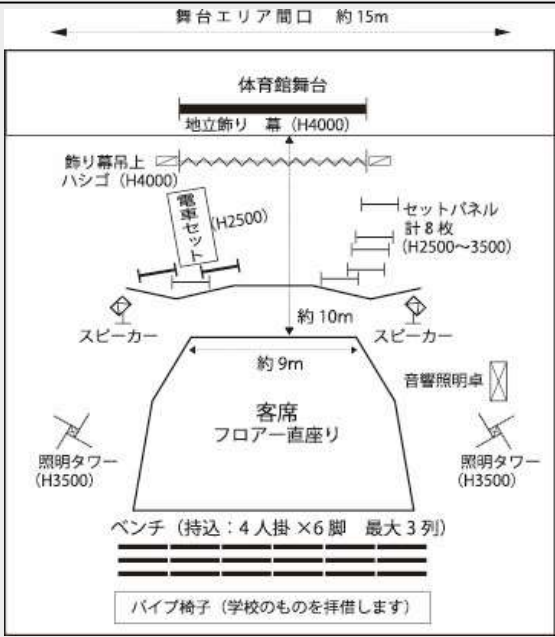
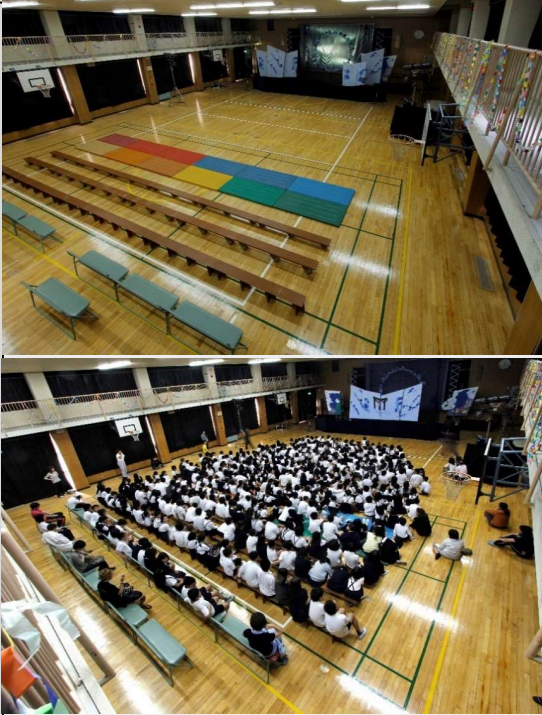
参考資料	申請する演目のWEB公開資料	無	
	※公開資料有の場合URL		
	※閲覧に権限が必要な場合のID及びパスワード	ID:	
		PW:	

別添	あり
----	----

【公演団体名 人形劇団クラルテ 】

本公演・ワークショップの内容	対象	小学生(低学年)	○	小学生(中学年)	○
		小学生(高学年)	○	中学生	-
	企画名	人形劇『いえでででんしゃ』～言葉にならなかった気持ちを伝える力に変えて～			
	企画のねらい	鑑賞やワークショップ・共演を通して、子ども達が人形劇の世界に触れ、物語の登場人物の気持ちを想像する体験をすることで、作品や人形劇そのもののへの理解を深め、より主体的に舞台芸術と関わることで、想像する力を育み、自らが表現する事、仲間と心を合わせ一つの舞台を作り上げることなど、多くの学びを受け取ってもらえる機会となることを目的としています。 作品のテーマでもある”自己発見”や”相互理解”をワークショップの内容にも関連させ、本企画を通した教育効果として、想像力、共感力、表現力、問題に立ち向かう力、コミュニケーション力を育むことに繋がります。			
	演目概要・演目選択理由	<p>《演目概要》</p> <p>”いえでででんしゃ”は子ども達の葛藤する思いを乗せて走ります――。</p> <p>家出した子どもだけを乗せて走る“いえでででんしゃ”は空を飛び、深海まで潜り、乗客は人間だけでなく、鳥や深海魚の子どもまでも乗り合わせます。そこでは皆、人間と同じように話すことができます。はじめは大人に怒っていた子ども達が、語り合い、共感し、協力し合ううちに、自分たちが本当に欲していたものに気づきます。誰にどう認めて欲しかったのか、理解して欲しかったのか等、そして自分の場所ですれを獲得するために家に帰っていきます。</p> <p>広い世界を描き、魅力的なキャラクターたちが登場し、家出してから帰るまでの心の流れを綴ります。</p> <p>《演目選択理由》</p> <p>親に言いたいことが言えなかったり、自分の気持ちが相手に伝わらず、悔しい、悲しい思いをしたことがない子どもはいないでしょう。そんな子ども達の葛藤する思いを乗せて”いえでででんしゃ”は走ります。自分を見つけ、自分以外のものを受けとめる体験をする小学3年。自我が伸びる時と、その時を通過した子ども達に、本作品を通し、自分の意思を相手に伝えること、相手と分かち合うことの大切さと喜びに共感し、一歩を踏み出す勇気や新たな問題に立ち向かう力を育んでいただきたいと思います。また、物語の展開の面白さやユニークな登場人物達から想像力を膨らませ、心を解放した楽しい時間にしてもらいます。人間関係が希薄になっている今の時代に、心が通う感動を子ども達の心に届けます。子ども達の身近なテーマを描いているため、自身と結び付けて感じ、考えていただける作品です。</p> <p>本作品は平成23年度トップレベルの舞台芸術創造事業助成金の助成を受け制作・上演し、その後、小学校公演作品として演出を加え、全国の小学校で上演実績があり好評をいただいていることも本事業への演目の選択理由です。</p>			
	児童・生徒の参加または体験の形態	<p>児童との共演では「生き物チーム」と「電車チーム」に分かれ、個々で表現したい児童は「生き物チーム」、集団で表現したい児童は「電車チーム」として、劇団員と一緒に1場面を作り共演します。劇の冒頭、舞台前に「生き物チーム」の児童(約10名)がワークショップで各々のアイデアで創作した生き物の人形を操作しながら登場します。それらは“いえで”をした子どもの生き物たちで、各々がその生き物の憤りを人形の声や動きで表現します。そこへ「電車チーム」の児童(約20名)が列になって身体で創る「いえでででんしゃ」が登場します。電車をイメージした身体の動きや擬音等はワークショップやリハーサルで児童のアイデアにより創作します。電車は舞台前までやって来て停車、待っていた生き物を乗せて出発。そのまま出演児童の列(いえでででんしゃ)が客席に着き、着座したところで人形劇の本編が始まります。</p> <p>参加児童が多い学校への対応としては、さらに「効果音チーム」を作り、客席から「電車チーム」をサポートしていただきます。劇に直接出演しない児童も、ワークショップでは一緒に皆で身体表現での電車を創作し、人形を1人1体製作します。</p> <p>本番終演後に、主にワークショップに参加した児童たちとの交流(人形や舞台小道具、照明や音響効果などの説明、集合写真など)も実施しています。(10分程度～)</p>			
	児童・生徒の参加可能人数	本公演	参加・体験人数目安	30名程度(共演する児童の人数)	
			鑑賞人数目安	400名まで	
本公演演目	『いえでででんしゃ』				
原作/作曲 脚本 演出/振付	原作／あさのあつこ(新日本出版社刊) 脚色／松本則子 演出／宮本敦 人形美術／永島梨枝子 舞台美術／西島加寿子 音楽／茨木新平 照明／永山康英				
出演者	公演時間	65	分		
演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名	【メインスタッフ】 松本則子(脚色)・・・人形劇団クラルテ劇団員、演出部所属。1966年入団、人形劇俳優を経て、現在は劇団内外の脚色・演出、演劇祭のコーディネート等を担当。主な脚色作品『ウーヌーグーヌーが来た!』『おーいペンギンさん』『いえでででんしゃ』『ほか。 1998年岸和田市文化功労賞、2009年「O夫人児童青少年演劇賞」受賞。 宮本敦(演出)・・・人形劇団クラルテ劇団員、演出部所属(演出部長)。2001年入団、同年初舞台。人形劇俳優、劇団内外の作品で脚色・演出を担当。主な作品『いえでででんしゃ』(演出)、『はてしない物語』『推し、燃ゆ』(脚色)、『ワラシ〜秘密基地に棲む妖怪』『負けない忘れない3・11』プロジェクト(脚本)など。主な出演作品『ハムレット』ハムレット役、『いえでででんしゃ』車掌役など。 永島梨枝子(人形美術)・・・人形劇団クラルテ劇団員、美術部所属。1977年入団。人形劇俳優・美術家。主な人形美術『ハムレット』『三文オペラ』『火の鳥〜黎明編〜』『はてしない物語』『ほか多数。人形・舞台美術『銀河鉄道の夜』『おきやく、おことわり?』など。主な出演作品『人殺油地獄』お吉役(令和元年度文化庁芸術祭賞演劇部門大賞受賞)など、数々の重要な役を担う。				
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数 含む	出演者:	6	名	運搬	
	スタッフ:	2	名		
	合 計:	8	名		
	積載量:	2	t		
	車 長:	6	m		
	台 数:	2	台		

本公演 会場設営の所要 時間 (タイムスケジュー ル)の目安	前日仕込		有	前日仕込所要時間		2.5	時間程度	
	到着	仕込		上演	内休憩	撤去	退出	
	8時30分	仕込み8時30分～11時 (児童出演部分のリハーサル 11時15分～12時)		13時30分～ 14時40分	0分	15時～ 16時30分	16時40分	
	※本公演時間の目安は、概ね2時限分程度です。							
本公演 実施可能日数 目安 ※実施可能時期につ いては、採択決定後 に再度確認します(大 幅な変更は認められ ません)。	6月		7月		8月		9月	
	0日		0日		0日		2日	
	10月		11月		12月		1月	
	7日		16日		11日		5日	
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。				計		41日	



公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出
がわかる写真)

- (写真・上) 体育館フロアに舞台を設置した状態
(写真・下) 客席に児童が座った状態 (暗幕は閉めます。換気のため窓のみ開けることも可能)
- ・体育館ステージ上も使用します。※ステージが無い場合、長机4脚で対応可能。
 - ・舞台設置に必要な面積 横15m 奥行き8m 高さ5m (ステージ上の高さ4m)
 - ・客席後方のベンチは持込み、最後席のパイプ椅子は学校のものを拝借します。
 - ・電源容量(主幹ブレーカー容量) 60A以上 単層三線 ※体育館の分電盤を使用します。

(舞台写真)



※会場条件につ
いて最低限必要
な条件がある場
合には、様式
No.4内「会場簡
易図面」を記載し
てください。



著作権、上演権等の許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続の要否			該当あり	該当コンテンツ名	原作『いえでででんしゃ』
	該当事項がある場合	権利者名	原作：あさのあつこ		許諾確認状況	使用(上演)許諾取付済

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添

なし

【公演団体名

人形劇団クラルテ

】

ワークショップの
ねらい

・創作・創造過程において、自己発見・自己表現や他者理解の活動をベースに、コミュニケーション力を伸ばし、劇の楽しさを感じてもらいます。
 ・集中力、協調性を養い、皆で一つのものを作り上げる演劇の醍醐味を味わってもらいます。
 ・自分で工夫して作った人形は愛着を持ち感情移入しやすく、劇体験に入り込みやすくします。
 ・人形を介することで、より自分を解放をしやすくなり、また、客観的に物事を考え意見を出しやすくなり、表現することや劇世界の楽しさをより感じることができます。
 ・人の気持ちを想像することで、思いやりの心を育みます。
 ・本公演への興味関心を高めます。

児童・生徒の
参加可能人数

ワークショップ

参加人数目安

60名程度まで
(学校規模により人数増対応)ワーク
ショ
ップ
の
内
容ワークショップ
実施形態及び内容

90分(2時限/前半45分、途中休憩5～10分、後半45分)
 主に小学4年生以上、1学年を対象に行います。(学校ごとに応相談)

1. 身体と心をほぐす(ウォーミングアップ)…自分の身体や相手を意識しながら想像力を広げるゲーム等を通して、身体と心を解放させます。

2. 架空の「でんしゃ」を創作(身体表現)・・・リズム遊びとリズムに合わせての身体遊びから、皆で動きとオノマトペを考え、身体を使って「でんしゃ」を表現し、走らせます。本番での電車チームの表現に繋がります。

(途中休憩)

3. 人形を創作する…紙袋や色画用紙等を利用して各々のアイデアによる生き物の人形を1人1体ずつ制作します。※紙袋は劇団で準備します。(学校では色画用紙、筆記用具等をご準備いただきます。)

4. 人形を遣う…人形で歩く、止まるなど、自分の身体ではなく人形を動かすことを意識してもらいます。どのように人形を動かすとどんな感情に見えるかなど、お互いに見合います。人形を遣う体験をする事で、人形劇表現の面白さに触れます。

5. 作品テーマに触れる…自分の創作した生き物が「もしも“いえで”をするなら…？」の問いかけから作品世界への想像を広げます。創作した生き物の“いえで”をする理由やその時の気持ちを想像し、人形を遣い発表し合う事から、本番の“生き物”の人形の表現に繋がります。

本番で実際に登場する人形も見えていただきながら作品の説明をすることで、本番に対する期待も高めていただきます。

5. 振り返り…児童から質問や感想を聞いていきます。

※この他に、本公演当日の本番前の時間で共演する児童とのリハーサル(45分)を行います。ワークショップの参加児童が多い場合、直接出演しない児童も、客席から「電車チーム」の効果音をサポートする役割としてリハーサル・本番まで一緒に参加していただきます。

本番終演後に、児童たちとの交流タイム(人形・舞台・小道具・照明・音響効果などの説明や集合写真など)も実施可能です。(10分程度～)

《児童製作の人形・例》

その他ワークショップに
関する特記事項等

・ワークショップの内容や準備物等は事前に各学校に資料を送り、打合せさせていただきます。
 ・ワークショップは広い多目的室や音楽室、図書室、体育館等で実施します。(人数によって会場サイズ要相談)

一般区分・特別エリア区分共通
No.4(共通)

別添	なし
----	----

【公演団体名 人形劇団クラルテ 】

記載方法等

例年、実施校の状況等により公演実施要件を満たさないことに起因するトラブルが一定数生じています。※以下は、過去実際にあった例です。
・会場が狭く、予定していた規模の公演が実施できなかった。
・搬入車両が構内に入らず、搬入のための追加費用が生じてしまった。
・児童・生徒が時間外の練習を行うことができず、児童・生徒の体験の範囲が限定的なものとなってしまった。
上記のように、公演実施要件を満たさない学校とのミスマッチングを防ぐため、公演実施に際して必要な条件を御記載ください。
任意項目については、学校に伝えるべき条件がない場合には記載不要です。
詳細な実施条件は、実施校との調整段階にて直接確認をいただくことになります。
なお、特段条件を必要としない項目や未定の項目については「条件なし」を選択、または記入してください。

会場条件

(必須)	公演実施にあたり、必要な会場条件を記載してください。						
会場の設置階の制限		2F以上応相談		主幹引き込み電源容量		60 A以上	
舞台設置面積		間口	15 m		奥行	8 m	
		高さ	5 m				
舞台設置場所		フロア対応	可		学校のステージでの対応		不可
搬入間口の広さ		幅	1.5 m		高さ	2 m	
遮光の要否		7割程度必要		緞帳の要否		不要	
ピアノの使用について		使用しない		ピアノを使用する場合の設置位置の指定		条件なし	
				ピアノを使用しない場合の移動の要否		要	
搬入車両(トラック等)の横づけ		必須		トラック横づけ不可の場合の搬入対応可能距離		5 m以内	
搬入車両の種類		中型トラック		台数	2 台		
搬入車両の大きさ		車幅	2 m		車長	6 m	
備考		・車両は、2トントラック(中型)1台、ワゴン車1台の計2台です。 ・遮光は、照明効果の為、7割以上が望ましいが、それ以下でも上演可能です。 ・ピアノは舞台エリアにかからなければ(体育館の隅など)移動しません。					

※表から数値を取得しますので、セルの結合や行の挿入・削除は行わないでください(幅や高さの調整は問題ありません)。

学校からの情報

(任意)	学校からの提出を求める資料がある場合のみ記入してください。	
会場図面の提出要否	要	
その他提出が必要な資料 (搬入間口や搬入経路の写真の提出等)		

時間外対応	(任意)	万が一、ワークショップや本公演のための児童・生徒の練習や製作物の作成に係る時間が、ワークショップや本公演の時間以外に別途発生する場合には、必要となる練習時間や製作時間等を必ず明示してください。				
	なお、一部の児童・生徒のみが授業を抜けてリハーサル等や練習を行う必要がある場合は、実施校とのトラブルを避ける観点からもその旨を必ず記載してください。					
	※上記の際は、対象となる児童・生徒の保護者の方への事前連絡や御了承を得る必要があるか否か等含め学校と十分に調整をしてください。なお、その際、代表以外の児童・生徒へもご配慮ください。					
		対象	所要時間(分)	時間帯	内容	備考
	ワークショップ					
	ワークショップ					
	本公演	共演、参加又は体験対象となる児童・生徒	45分	本公演前(当日)の1時限	共演部分のリハーサル	共演する児童の参加必須。ワークショップ参加児童のうち、共演しない児童の見学参加も可能。
	本公演					

個別確認事項	(任意)	上記条件や資料以外に、公演実施に当たって学校へ個別の確認が必要な事項がある場合、記載してください。	
		個別ヒアリング事項	
	1	地域や会場条件によっては、前日仕込みをお願いする場合がありますが、ご対応は可能でしょうか？	
	2		
	3		

(任意)

会場条件について最低限必由奈条件がある場合、簡易図面を記載してください。

※搬入に関する条件の詳細については、上記の会場条件欄にて確認してください。

会場簡易図面

体育館
舞台

舞台袖

体育館の舞台

高さ4m

舞台袖

設置舞台

パネル

ピアノ設置
位置

設置舞台

8 m

15 m

2 m

約 9 m

音響
席

照明

照明

体育館
フロア

鑑賞位置

鑑賞位置

間口

フロア使用時

後方

トラック

前方

別添

なし

【公演団体名

人形劇団クラルテ

】

本事業を通じて実現したいこと、また当該工夫

【本事業を通じて実現したいこと】

文化・芸術は基より、自然や遊びという日常の中での実体験がますます少なくなっている子ども時代に、本物の舞台芸術に出会わせたいと強く願います。日常生活が豊かな自然や人間関係の中で育まれている子ども達に向けて公演した時には同じ作品が驚くほど輝きを増す体験を何度もしてきました。何もしなければ日本の未来を担う子ども達は日常体験も芸術体験も乏しく、想像力・創造力・共感力を育むことなく大人になる事への危機感を持っています。本事業は子ども達が主体的に舞台芸術に関わることができる機会であり、子ども達にとって豊かな体験の機会となっています。

本事業では、ワークショップ等の体験を通して子ども達が人形劇の世界に触れ、物語の登場人物の気持ちを想像することで、作品や人形劇そのものへの理解を深め、想像する力を育み、自らが表現する事、仲間と心を合わせ一つの舞台を作り上げることなど、多くの学びを受け取ってもらえる機会とします。さらに鑑賞を通して、心を動かし、感性と想像力を刺激し、共感力、思考力を広げる機会とします。

当劇団では本事業に10年以上関わり、全国の学校で鑑賞・体験を通して多くの児童・生徒と出会ってきました。その実績・経験を踏まえ、現代の小学生達に届けたいテーマ・内容として本企画を提出します。本作品は平成23年度トップレベルの舞台芸術創造事業助成金に採択され制作し、以降全国の小学校で上演実績があり、芸術性・テーマ性共に評価をいただいております。本演目をもってより多くの児童に芸術鑑賞の機会を提供したいと考えております。

【上記の実現に向けて、実施の工夫】

- ・ワークショップ時には、本番に登場する人形を見せながら作品の説明をし、児童達が作った人形(生き物)の場合はどうするかという問いかけから作品世界への想像を広げます。
- ・劇団員が一方的に教えるのではなく、児童が自ら考え、表現することを重視します。
- ・児童達には実際に目の前で役者が汗を流して演じていることや、舞台も人形もすべて人の手によって作られていることを知り、感じる、リアルな体験となってもらいたいため、交流の時間も可能な限り持つようにします。
- ・終演後の児童退場時には、役者が人形を持って児童たちとコミュニケーションをとりながら見送りをします。

【学校との連絡調整について】

- ・劇団担当者より電話・メールにてご担当先生へ連絡を入れます。
- ・上演に向けての詳細やワークショップの概要書を作成し、メールで送付します。

《事前連絡の目安》

- ①年度初めに、概要書など資料をメール送付し、電話にて公演・ワークショップ内容の説明とスケジュールの確認をします。(タイムスケジュールは学校の予定が決まり次第、相談)
- ②ワークショップの打合せ・準備物の確認等を実施の2ヶ月程度前に電話及びメールにて行います。
- ③本公演の打合せは、上記②と同時にを行い、ワークショップ終了時に会場下見と併せて直接最終確認をします。
- ④その他、必要に応じて、随時、連絡対応させていただきます。

本事業への応募理由等

事業を適切かつ
円滑に実施するための
工夫

【対象児童・生徒に応じた工夫や留意点について】

・児童が製作する人形は、身近な材料を使い、簡単に作ることができ、個々で創意工夫を楽しめるものにします。ワークショップ時に完成しなくても、本番までの間に続きを作ったり、装飾してもらうように促すことで人形により愛着がわき、本番までのモチベーションを高めることができます。学校側の負担にならないよう、主な材料である紙袋は劇団側で準備をします。

・舞台エリアの関係上、本番の出演人数には限りがあるため、児童数の多い学校によってはワークショップ参加者の一部のみの出演となる場合があります。直接出演しない児童も客席から「効果音チーム」として場面を盛り上げる役割として、リハーサルも一緒に参加していただきます。ワークショップ時に共演部分に繋がる内容を皆で体験することで、本番に向けて全員で劇を作っているという意識を持ち、人形劇全体への興味・理解も深まります。

・児童の出演は公演の冒頭部分なので、出演後は客席で落ち着いて鑑賞に集中していただけます。劇に関わったことで、より主体的に鑑賞していただいています。

・打合せ時に各学校の意見や要望を聞き、ワークショップの基本プランを元に、柔軟により発展させられるよう、学校ごとに対応させていただきます。

・ワークショップ、鑑賞等において特に配慮が必要な児童がいる場合は、参加方法・鑑賞方法など学校ごと柔軟に対応させていただきます。

・特別支援学校でのワークショップは、事前に先生と相談し、必要な場合は学校ごとに特別メニューで対応させていただきます。本番前に登場する人形を間近で見触れてもらい作品の世界により入り易くする、ワークショップの内容や進行について児童が見通しを持てるようにホワイトボードなどに流れを書き出し分かりやすく説明するといった対応などをさせていただきます。参加方法・鑑賞方法についてもできる限りご要望に対応いたします。

【本公演等実施後の児童・生徒への継続的な学びについて】

ワークショップ・共演等を通じた体験は、自分と周りとの意見や考えの違いを知り、仲間と一つの場面を作り上げ、他学年の前で発表するという達成感を伴う経験として、子どもたちのコミュニケーション力を高め、感情表現や他者との関わりを深めます。また、身近な材料を使った人形の製作は創造意欲を高め、自分の身体を使った表現をすることでの表現力を向上させます。鑑賞を通して、心を動かす経験、人の思いを知り共感する経験は、豊かな感性を育みます。以上のことが、本公演実施後の子ども達にとって生きる力に繋がる継続的な学びとなります。

別添 ※別添は1企画当たり3枚までとします。※文字のポイントの変更は認めません。

リンク先	No.2	【公演団体名	人形劇団クラルテ	】
演目概要	<p>《あらすじ》</p> <p>「花びんを割ったのは私じゃない！」無実の罪で母親に叱られたさくら子は家出をします。駅で電車を待っていると不思議な電車が目の前に現れます。それは家出をした子しか乗れない不思議な電車“いえでででんしゃ”です。中にはへんな車掌さん。さくら子が乗ると後から隣のクラスのけいすけくんが飛び乗ってきました。“いえでででんしゃ”は空を飛び、海に潜り、どんどん進んでいきます。途中、鷹の仲間のチョウゲンボウや深海魚のリュウグウノツカイの子どもが電車に乗ってきました。ふたりとも、親に兄弟と比較されたり、自分の気持ちを分かってもらえず家出をしてきたと言うのです。車掌さんは、「みんなが行きたいところへ連れて行ってあげる」と言うけれど、みんなが本当に行きたい所ってどこ？疑問を持った瞬間、“いえでででんしゃ”はスピードダウン。子どもたちがそれぞれの思いから家に帰ることを決めた時、今度はみんなの家に向かって“いえでででんしゃ”は走り出します。</p> <p>《その他》</p> <p>終演後の児童退場時に、出演者が登場した人形と共に見送りをするので、すぐ目の前で人形を見ていただくことができます。</p>			